

AWG 治療機器を用いたがん疼痛治療

Cancer pain management by AWG treatment

藤田 亨

Key Words: がん疼痛治療, 病原体死滅

■はじめに

がん疼痛治療と言えば、ホスピスを思い浮かべる臨床の先生方が多いと思います。しかし、がん疼痛治療（ホスピス）において、疼痛コントロールは、ほとんど非ステロイド系抗炎症剤と麻薬を段階的に投与する、WHO のラダー理論に基づいて行われています。この疼痛コントロールの方法は、究極的には、モルヒネなどの強力な麻薬によって行われることは、周知の事実です。強力な麻薬は、腸管に作用して、頑固な便秘を引き起こし、引いては、呼吸循環抑制等の重篤な副作用を起こし、寿命を極端に縮めます。強力な麻薬の鎮痛効果で、ほとんどの疼痛は、緩和されるかもしれませんが、その副作用による新たな苦しみ（呼吸苦など）を患者さんに与えることとなります。

そこで、このような副作用をほとんど認めない、医療機器による疼痛緩和がなされるとしたら、理想の疼痛緩和と言えるのではないのでしょうか？またこの理想の疼痛緩和を行うことによって、患者さんのほとんどの苦痛が緩和され、免疫力が回復して、病原体を死滅させることができれば、寿命の延長にも通じると私は考えています。それを実現してくれるのが AWG (Arbitrary Waveform Generator: 段階的素粒子波動発生装置) だと確信

MD Tooru Fujita
医) 永徳会 血沼クリニック 院長
Eitokukai Medical Corporation

しています。

■ AWG (Arbitrary Waveform Generator

: 段階的素粒子波動発生装置) とは

AWG の作用は、人体の深奥の極微単位である電子に作用し、大量のマイナス電流を帯びた波動により、病原体を死滅させるという機序によるものだと思います。これだけ読んでも何のことか分からない人が多いことと思います。あらゆる病気の病変部は、プラスの電荷を帯びており、そこに特定の周波数を使うことで、粘着パッドを通して大量の電子を供給し、電気的中和を図るといった方が良いと思います。電気的中和の状態になることで、免疫が活性化し、あらゆる病原体を駆除することができるようになります。また腫瘍監視免疫も活性化され、苦痛を産んでいた悪性腫瘍も、苦痛の原因物質を出しにくくなるということでしょう。物理学的には、生体分子は蛋白質-蛋白質間で水を介して大きく揺らいでおり、周波数に依存しています。加齢、生活習慣が悪い等、日々の生活をしていく中で、生体分子集団は乱雑になっていきます（病気の方向に向かっていきます）が、AWG の可変周波数や帯電などにより、病変部を反エントロピー（秩序ある方向に）修正治療します (図)。

■ AWG 治療機器を用いた

がん性疼痛治療への応用

私のクリニックでの治療経験でも、発熱した時に、黄色ブドウ球菌のコードと連鎖球菌のコード



図 デブスパルス AWG AC5000

を免疫向上のコードと連続して AWG 照射を行った所、抗生物質を使わずに患者さんの熱が下がりました。乳がんが腰椎に骨転移を起こし、耐え難い腰痛を訴えていた患者さんは、サイバーナイフ等の治療を数回受けても疼痛が改善しませんでした。免疫向上のコードとウイルス疾患のコードとヘルペスのコードを連続して AWG 照射を行った所、痛みがかなり緩和されると患者さんが感謝しておられました。私のクリニックの症例だけでは、手前味噌になるので、文献にある患者さんの変化を載せてみましょう。「客の身体の痛みを和らげ、まるで魔法に掛けたような安楽な時間を作り出す」と気功師は言ったとあります。別の症例で「AWGに出会うまで、本人は、ひどい痛みで苦しんでいました。モルヒネも効かず、朝から夜まで苦痛の中にいました。しかし、AWGをかけるよ

うになってから、毎日の苦痛が軽くなり、おだやかな表情に変わりました。たしかに末期がんは、治りませんでした。死の直前の微笑みをたたえた安らかな死に顔は、家族にとっての安らぎでした。……」。

これだけの客観的な効果をもたらす、AWGですが、がん疼痛治療を成功させるには、生活習慣の改善が重要になります。がん末期になると医師から「何を食べてもいいよ」と言われる場合がありますが、私から言わせれば、油断禁物です。食べられている間は、せめてマイルドな糖質制限が必要と考えています。AWG治療を受けていても、好きなもの（主にGI値の高い糖質の食べ物）を食べていて、寿命が短くなった患者さんを多数診てきました。そのような悲劇は、繰り返したくありません。AWGによる治療の当面の目標は、がん疼痛の緩和ですが、その先の寿命を延ばす治療にも、生活習慣の改善を土台として取り組みたいと考えています。私のクリニックでは、生活習慣の改善（食事療法、睡眠のとり方等）をプリントにして患者さんにお渡ししています。私と一緒にAWGのがん疼痛治療（臨床研究）に取り組んでみませんか？連絡先にご一報お待ちしております。

文 献

- 1) 改訂版「AWG」は魔術か、医術か？俊成 正樹著 五月書房刊
- 2) 超音波による膜の研究 美宅茂樹 東京農工大学 1984
- 3) 揺らぎの反応と生体分子科学 寺嶋正秀 京都大学大学院 2013
- 4) 生命、細胞、生体膜 花田堅太郎 国立感染症研究所 2012

機器販売元 株式会社アジアス
お問合せ先 (一社) 日本先進医療臨床研究会
TEL: 03-5542-1597